

所 管 事 務 調 査 報 告

平成 2 4 年 6 月 1 9 日

薩摩川内市議会企画経済委員会
委員長 宮 脇 秀 隆

1 現地視察

(1) 調査事項

- ア 林務・水産振興について
- イ 商工業・観光振興について

(2) 調査日

4月16日

(3) 出席委員

宮脇委員長、大坪副委員長、岩下委員、宮里委員、川添委員、江畑委員、東委員、谷津委員

(4) 調査概要

今後の審査の参考とするため、中越パルプ工業株式会社川内工場が地域の竹林管理、竹の新たな経済価値創出、里山の保全・再生等による地域貢献を目的に取り組んでいる竹紙製造についての現地視察を実施した。

2 行政視察

(1) 調査事項

- ア 地域振興施策について
- イ 行政改革について
- ウ 商工業・観光振興について

(2) 調査先

東京都荒川区、NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会（長野市）、長野県松本市

(3) 調査日

5月15日から17日まで（3日間）

(4) 出席委員

宮脇委員長、岩下委員、宮里委員、川添委員、江畑委員、東委員、谷津委員

(5) 調査の目的

政策形成における新たな指標の導入、住民主体のまちづくり及び観光客の受入態勢整備の先進地の現状・取組を学び、薩摩川内市への応用・展開を検討する。

(6) 調査概要

ア 荒川区民総幸福度（東京都荒川区）

荒川区は、現区長の就任直後の平成16年に「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン（事業領域）を設定し、物質的な豊かさ

や経済効率だけでなく、心の豊かさや人とのつながりを大切にし、区民一人一人が幸福を実感できるまちを目指すことが区政の役割であることを明示した。そして、平成19年に発表した荒川区基本構想において、将来像を「幸福実感都市あらかわ」と定め、ブータン国王が提唱する「国民総幸福度（グロス・ナショナル・ハッピーネス：GNH）」の理念を取り入れた「荒川区民総幸福度（GAH）」を区長のトップダウンで導入した。

区民の幸福度向上を図り、幸福実感を政策に結び付けるための検討を進めるため、国や他自治体に先駆けてプロジェクトチームを立ち上げ、更に平成21年には自治体シンクタンク「荒川区自治総合研究所」を設立し、「幸福度」を数値化して区政運営の指標とし、自治体経営の基盤強化や質の高い区民サービスを提供するための多角的かつ中長期的な視点に立った調査研究を行っている。

区政世論調査における幸福度調査取入れ、広報紙の発行やシンポジウムの開催などの具体的な取組により、GAHを基点として、区民と行政が協働して荒川区を良くしていこうという気運が浸透しつつある。また、ワーキング・グループに区の若手職員を積極的に参画させ、現場の視点からボトムアップで具体的な検討・提言を行っており、職員の意識改革とスキルアップにもつながっている。

イ NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会による松代のまちづくり

昭和41年に長野市に合併した長野市松代町は、真田十万石の城下町として栄え、古い土蔵や町屋、武家屋敷など風情ある街並みと数多くの地域資源を有する地域である。平成12年に長野市が住民参加のもと策定した松代地区中心市街地活性化基本計画においては、自然や歴史、文化や人など松代にある資源を生かしてまち全体を博物館にする「信州松代まるごと博物館構想」が掲げられた。

この構想を市民参加で実現し、「住んで暮らしやすい、訪れて心癒えるまちづくり」を目指して平成13年に発足したのが、松代で初めての本格的な住民ネットワーク型まちづくり組織である「NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会」である。現在会員数は町内外の約150名で、歴史・文化の継承と新たな文化の創造、松代地区活性化のための各種調査と提案、次世代育成、まちづくりのネットワーク化と情報の発信、まちづくりコンサルタント事業など、松代地域の活性化に資する多彩な事業を展開し、各種イベントや積極的な情報発信活動を行い、地域活性化に大きく貢献している。

こうした熱心な取組が功を奏し、訪れる観光客も大幅に増加しているほか、他のまちおこしグループやボランティア団体等の活動も活発化し、住民主体のまちづくりが実践されており、かつて「合併して駄目になったまち」とさえ言われていたが、今では「住民が頑張っって地域をよみがえらせたまち」として注目されている。

ウ 観光ホスピタリティカレッジ運営事業（長野県松本市）

国宝松本城を始め文化財、自然、温泉などの多彩な観光資源を有する松本市は、「観光に磨きをかけるまちづくり」を掲げ、平成16年に観光戦略本部を設置、さらに、平成18年には「松本市の観光戦略」を策定し、観光のまちづくりを進めている。

平成17年に開校した観光ホスピタリティカレッジは、地域ぐるみでもてなしを学び、実践するため、観光戦略の施策の中でいち早く取り組まれてきた。松本大学観光ホスピタリティ学科と連携して講師を招き、おもてなしの心や技量を体系的に学べる各種講座を開催していることから、観光関連産業従事者を始めとする多くの市民が参加し、昨年度までの修了者は400名を超え、多くの来訪者が訪れる観光地としての受入態勢の整備とホスピタリティの質の向上に寄与している。

(7) 所感

ア 市民の幸福度を向上させる手段として、将来像の提言、政策立案の段階に市民が参加することで、市民の幸福度を向上させる施策を検討する必要がある。本市においても、荒川区の研究課題を参考に、市民の幸福とは何か、どのような幸福度指標が薩摩川内市にふさわしいのか等、将来的な思想の中で幸福度の理念を採用していく必要性が考えられる。

イ 本市の中心市街地の活性化については、先入観にとらわれることなく、新たな手法も取り入れながら成功事例をつくっていくことが必要と思われる。松代のまちづくりは、衰退していく地域をよみがえらせるには、地域に誇りを持ち、危機感を共有する人々が、あきらめることなく知恵とエネルギーを結集することが重要であるということの好例であった。

ウ 本市においても、甕島等の観光地づくりに当たっては、更なるホスピタリティの醸成が急務であり、何らかの手立てが必要である。市民参加型の講座の開催や「薩摩川内検定」制度を設けるなど、市民の興味を引き出し、観光客を心からおもてなしする態勢の整備を図ることが重要と考えられる。